



しょうがく ねんせい はちや れいじ  
小学3年生 蜂谷 怜士

地球の未来を  
考える  
コンクール

# 「今とみ来の海」



「この世界のどこかにある海では、とても大へんな事になっていました。」

「なんてこんなにゴミがいっぱいあるの?!」

アジ太郎は、びっくりしました。いつもは、とてもきれいなはずの海がゴミでいっぱいになっていたので。そして、ほかの魚たちがなんとゴミをえさと間ちがえて食べてしまっていたのです。そのせいでどんどんどんどん死んでいってしまって、海のなか間たちがどんどんいなくなってしまうのです。

「どうしようどうやったらこんなにいっぱいゴミをかたづけられるんだろう。」

アジ太郎は、いっしょうけんめい考えました。

「そうだったらいいんだー!」

アジ太郎は、友だちのサメ丸やフグごろうや海のなか間たちと一しょにぐるぐると回りはじめました。そして海にとても大きいうずを作ったのです。そのうずがたくさんのゴミを集めました。ゴミは、うずのうずにつつまれていきました。

そして、ゴミを人間たちの所においかえたのです。

人間の町に大りょうのゴミがふつてきました。それで人間たちは、その町に住めなくなっていました。

人間たちは、海の生物たちと同じように、ひどい生活をさせていたことに気がついたのです。海をよごさないようにゴミをちゃんと拾うようになりました。

そうして、アジ太郎たちは、元のきれいな海の平和なくらしが出来るようになりました。めでたし、めでたし。



アジ太郎のかつやくで、きれいな海を取り戻そうとするなんて、すごく面白い発想でワクワクするね!

たくさんの海の生き物が、みんなで協力してがんばっている様子が、とてもよく伝わってくる絵だね。カラフルな色合いもすてき!







しょうがく ねんせい たかぎ ゆう  
小学2年生 高木 優卯

地球の未来を考える  
コンクール

# 「平和のために」



この世界のどこかでは、人びとはせんそうを  
しています。せんそうしている所では、動物た  
ちがぎせいになって、悲しそうに泣いていま  
す。

人と人があらしいをおこすように、ミーア  
キャットもきびしいかんきょうの中で生きるた  
めに、なわばりあらしいをしています。見た目  
はともかわいけれど、強いいちめんもあり  
ます。

私は八月六日、広島の平和きねん式にさんか  
して、平和について考えました。平和を作るた  
めに、私ができることは、1、おり紙でおりづ  
るを作つて平和をいのこと。2、やさしい気  
持ちでいるためにうたをうたをうたことでした。

なので、せんそうしている所や、ミーアキャ  
ットがあらそいしている所に、空からおりづる  
をふらせて、やさしい音楽をかけます。

そうするとあらふしぎ。あらそいがなくなり  
ました。平和な世界のかんせいです。色とりど  
りのおりづるとやさしい音楽が平和な世の中を  
作りました。

めでたしめでたし。



自分の体験をもとに、争いのない  
平和な世界を作る方法を、すてきな  
想像力で書いてくれているね。

おりづると音楽が、平和をもたらして  
くれている様子を、画用紙いっぱい  
描いてくれたね。  
こんな幸せが降る世界っていいな～







しょうがく ねんせい いちわら はると  
小学3年生 一葉 晴翔  
はな び

地球の未来を考える  
コンクール

# 「花火のタネ」



ひゅーん、どおーん、ぱちぱちぱち。  
 今夜もカラフルな花火があちこちであがって  
 います。今日の花火当番はぼくとお姉ちゃん  
 です。今日は新作のながれ星花火がキラキラ  
 と飛んでいます。とおくの国からも花火があ  
 がりました。あの国の花火は大きいな。あつ  
 ちの国の花火はキラキラしてとってもキレイ  
 だなあ。世界じゅうで花火タイムが終わった  
 ら星空を見上げてみんなでねおります。  
 朝になると花火から落ちたタネからたくさ  
 ん芽が出て色とりどりの花が咲きはじめまし  
 た。  
 今日も空気がきれいだな。ありがとう、お花  
 さんたち。今夜の花火はどんな色かな。どん  
 な形かな。お姉ちゃんど当てっこをします。  
 こうして毎日あちこちで花火があがり、次  
 の日になると花が咲くので、ぼくたちの地球  
 は花いっぱい空気がきれいになりました。  
 毎日きれいな花火とこどもたちのえがおで地  
 球もよろこんでいます。



地球が、花火のにぎやかさと幸せの花で、  
 いっぱいになっている様子を、絵の具や  
 クレヨンを重ねて表現できているね。

花火から落ちたタネが、地球を笑顔に  
 する花が咲くなんて、とっても夢のある  
 おはなしだね！







しょうがく ねんせい かじわら きょういちろう  
小学5年生 梶原 京一郎

地球の未来を考える  
コンクール

# 「ぼくのたからもの」



ぼくが大事だいじにしている自転車じてんしゃ。大学生だいがくせいになるお兄さんにいさんの「おさがり」です。お兄さんにいさんが六年間ろくねんかん使ってぼくで五年目ごねんめです。おじいさんおじいさんが営む自転車屋じてんしゃやさんで修理しゅうりして大切たいせつに乗のっています。

ぼくの洋服ようふく。お兄さんにいさんが着きて今はぼく。次つぎは、近所きんじょのヤマ君くんが着る予定よていです。ぼくが赤あかちゃんちゃんの時に着まていた服へんぷは、近所きんじょのいっ君くんが着きています。

「リデュース」と「リユース」地球ちきゅうと環境かんげいにやさしい取り組みとりのりです。ぼくが「おさがり」を大切たいせつにすると、地球ちきゅうのためになります。でもそれだけじゃない。

「ありがとう。使つかってくれてるんや。」

「あんなころあったなあ。思おもい出すわ。」

笑顔えがおで僕ぼくに話はなしてくれます。「おさがり」は思おもい出でや人と人ひとを繋つなぐぬくもりのある資源しげんです。たからものです。「おさがり」が世界せかいじゅうに広ひろがれば、人ひとにも地球ちきゅうにも優しい素敵すてきな未来みらいになります。

そんな世界せかいにぼくは住すみたい。



モノを大切たいせつにして、地球ちきゅうを守まもることで、幸せしあわせも広ひろがっていくのだね。

手てを取り合あってきれいな地球ちきゅうを守まもっている、やさしい想おもいが伝つたわるすてきな絵えだね。



# 「カブトムシ」



ぼくは、なつ休みのあいだ、おとうさんとお  
かあさんが休みの日に、カブトムシを買いに行  
きました。  
おとうさんがごどものときは、山に行けば  
いっぱいとれていたよと、おとうさんが話をし  
てくれました。ぼくは、なんでいまは買わない  
といけないのと、おとうさんにききました。す  
るとおとうさんは、ちきゅうのくうきがきたな  
くなったり、ちきゅうのおんどがたかくなっ  
りしているから、カブトムシの数もすくなく  
なってきたと、お話ししてくれました。  
ぼくは、カブトムシが大すきなので、カブト  
ムシたちがもっとちきゅうにすめるようにムダ  
なゴミをへらし、ちきゅうのためにぼくにもで  
きることをやっていきたいです。カブトムシや  
どうぶつたちが長く生きられるようなちきゅう  
にしていきたいと思っています。



はく力のあるカブトムシとクワガタが  
かっこいいね！  
とくちょうを良く描けているね。

虫たちが幸せにくらせる自然が、  
もっとふえるように、何ができるか  
考えていきたいね。





# 「しぜんをたいせつに」



ごみをすてるとき、ごみを川や海にすてる人がいるから、川や海の生きものがこまっています。

だから、わたしたちは生きものをたすけたいと思いました。海のごみをひろい、魚たちがごみを食ったり、からだにささったりしないように、わたしたちのごみをたくさんひろいました。

海はきれいになりましたが、川はまだごみがたくさんあるので、川のごみをたくさんひろって、魚がまちがってたべたり、なにかがささったりしないようになりました。

わたしたちは海や川のしぜんをもどすために、たくさんのごみをひろって、きれいな海と川にもどしました。海にすんでいる生きものたちがすく大よろこびしていました。

そして、海や川にごみをすてる人は、いなくなりました。

わたしたちも海や川の生きものたちとなかよくなり、海や川の生きものたちにまいにちごはんをあげています。海や川がきたなくなつたときは、わたしたちがまたそうじをします。



ゴミをひろってきれいになっただけではなく、みんななかよくなったのが良かったよ！

きれいな海で、ふわふわういているクラゲやクリオネたちが気持ちよさそう！





うみ  
「海をまもろう」



年々、海の生き物がへつていると言うニュースを見た。なぜへつているのだろう。そこで、ぼくは海をのぞいてみることにした。

ある日、おなかをすかせたウミガメくんは大きくなクラゲを見つけた。お昼ごはんにしようとお口をあけたけれど、あれ、いつもと何かがちがうぞ。よく見てみると、それはクラゲではなく人間のせいかいにあるビニールぶくろだった。

そのとき、ウミガメくんはこれをイカとまちがえて食べてしまった魚のお友だちがしんでしまったと言う話を思い出した。僕もまちがえて食べなくてよかったとウミガメくんはひとあしん。

ウミガメくんと同じ海でくらすしているクマノミくんは、ピンク色のサンゴのような家にすんでいる。だけど、じまんのピンク色の家はだんだんと白色になってきていた。これは人間がつかう、しがいせんをきゆうしゆうしない日やけどめがげんいんなのだそう。サンゴしょうを家ではなくごはんにしていた友だちも、さいきんはごはんが少なくなってきた。いるってなはしていたな、と思いだした。じまんのピンク色の家にもどすためにはどうしたらいいのだろう。

海の中をのぞいてみると、人間がつかうものが原いんで海にわるいえいきようが出てることが分かった。それにより、海の生き物の数がへつてきているのだ。ぼくたち人間はビニールぶくろなどのゴミが出ないようにエコバッグをつかったり、海にながれてしまったゴミをひろったりしなくてはならない。また、人間にも海にもわるいえいきようがないものをつかうひつようがある。

ぼくたちの行動だけで海の生き物たちをまもることができるとはわすれず、自分が今できることをひとつずつとりくみた。

そして、海の生き物がのびのびとくらせるかんきようをまもっていききたい。



海のいきものが、とてもは力があっていいね！問題をしっかりと絵で表現できているね。

いろいろな魚やサンゴしょうの話を細かく書いてくれて、読んだ人たちが勉強になるね！





いぬ からだ  
「犬が体をあらえない」



犬は体があらえないから、きたなくなつていきます。前はきれいでした。前は大好きなかいぬしさんがいました。でも、今はいません。だから今はきたなくて、おなががすいても、ごはんをくれるかいぬしさんがいません。

みんなどこかにいっちゃった。いっぱいいっぱいさがしたけど、いないから、いっぱいいっぱいきたなくなつて、いっぱいいっぱいおなががすいた。かいぬしさんはどこだろう。

おふろにいれてくれた、おいしいごはんをくれた、いっぱいいいっぱいあそんでくれた、やさしいかいぬしさんはどこにいつてしまったんだろう。

あの犬はずっとかいぬしをさがしているんだ。でも、あの犬はすてられたんだ。すてられたことがわからずに、ずっとかいぬしが大好きで、ずっとさがしつづけている。

あの犬はすてられなければ、ずっときれいで、ずっとおなかいっぱいで、ずっとしあわせだったのに。体じやない、心がきたないかいぬしにかわれて、しあわせじゃなくなった。

これからのちきゆうをよごすのは、きたない犬じやない。きたない心かいぬしだ。ぼくは犬やねこが大好きだけど、そんな心がきたないかいぬしにはなりたくない。心がきれいなかいぬしばかりだったら、きつとちきゆうもきれいになると思うし、しあわせできれいないぬばかりになると思う。

動物はきれいな心の人だけがかいぬしになつてほしい。ぼくはおとなになつたら、心をきれいにしして、好きな動物をしあわせにしたい。



きれいな心のかいぬしさんが  
ふえることで、動物たちも幸せに  
なれるのだね。

犬のさみしそうなのですがすごく上手！  
早く良いかいぬしさんに出会えるといいね！





ち ぶん べつ  
「地いきのゴミの分別」



ゴミを山や海にすると、わたしたちのす  
んでいるところが汚れてしまいます。水も汚  
染されてしまい、大変不衛生な生活になります。  
また、山や海にすむ動物や魚たちが苦しん  
でいます。

豊かな山や海にするためには、どうすれば  
いいでしょうか。それは、自分たちや、友達、  
家族がゴミを、集めてもってかえったり、来  
たときよりも、山や海を、うつくしくしてか  
えることです。

一人一人の努力が、豊かな山や海を作り、わ  
たしたちの生活を支えます。

山や海だけではなく、くらしの中にも、い  
ろいろな、問題があります。ゴミを種類別に  
分ける活動はリサイクルにつながります。プ  
ラスチックのさくげんや、エコ活動になりま  
す。わたしたちは、この活動を続けて、豊か  
な自然がある地球にするために、みんなで、  
協力していくべきだと思います。



動物たちが幸せそうにすごしていて、  
自然が美しくなったようすを描けて  
いるね！

山や森のおはなしだけでなく、  
ふだんの生活の中で、自分のできる  
ことを考えることができたね。

